

令和8年2月13日  
10時 13分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 11 番 氏名 足立 豪

答弁を求める者  市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長  
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 地方消費税のあり方と、国道バイパス接続による浜田市財政に与える影響について  
本市の財政運営を考える上で、人口減少と並び今後の影響を丁寧に見ておく必要があるのが、市民の消費行動や生活圏の変化である。

地方消費税は、消費が行われた場所に直接帰属する税ではなく、統計的な配分により都道府県を通じて市町村に配分される仕組みであり、市町村が単独で増減をコントロールできる税目ではない。一方で、市民がどこで消費を行うかという行動は、市内事業者の売上や雇用を通じて、中長期的には地域経済や税源構造に影響を及ぼす。

本年3月28日、国道バイパスが益田市方面まで接続され、浜田市から近隣市への移動時間は大きく短縮される。これは利便性向上であると同時に、消費行動の範囲が広がる契機にもなり得る。

また、消費税やインボイス制度については制度の是非を論じるのではなく、現行制度前提のもとで、市内事業者や地域経済への影響を浜田市と共有することが重要だと考えている。

制度構造と環境変化を共通認識とした上で、浜田市としてどのように受け止め、備えていくのかを確認するために次のとおり質問する。

(1) 地方消費税と消費流出に対する市の基本認識について

①地方消費税について、市民の消費が市外へ流出することと、浜田市の財政および地域経済との関係を、浜田市は制度上の制約も含めどのように認識しているのか基本的な考えを伺う。

②具体例で話をすると、浜田市で年商2,200万円の飲食店。

■収支構造

●売上2,200万円、経費1,946万円、利益254万円

●消費税 約64万円、国保 約35万円、国民年金 約21万円、所得税 約6万円  
住民税 約12万円、さらに借入返済72万円を差し引くと、最終手残り 約44万円、月額約3.6万円、これが現実である。

このような構造が市内業者の現状と捉えた場合、地域経済と税基盤への影響を市はどう評価しているか伺う。

(2) 国道バイパス接続を踏まえた市政運営の姿勢について

- ① 今回の国道バイパス接続による人流の変化を、単なる利便性向上として捉えているのか、または市内消費、事業者の持続性、財政基盤にも影響を及ぼし得る浜田市のあり方を見直す転換点と捉えているのか認識を伺う。

2 浜田市社会福祉協議会の存在意義・不可代替性について

人口減少と財政制約が進む中、「これまでそうだったから」「重要な組織だから」という理由で、従来どおりの組織のあり方について考えを固定化することは、市民に対して不誠実といえる。

その中で、毎年浜田市が多額の財源を投じている浜田市社会福祉協議会について、存続させる合理性が現在も明確に説明できるのか、存在意義・成果・財政・将来像の観点について確認する。

なお、社会福祉そのものや、現場で汗をかき市民に寄り添っている個々の職員の努力を否定するものではない。あくまでも組織形成は目的ではなく手段であり、市民の大切な税金を投入する以上、その存在理由と成果は、常に説明可能でなければならぬと考えており、それを踏まえ浜田市の考えを伺う。

(1) 浜田市社会福祉協議会の役割の独自性について

- ① 浜田市社会福祉協議会でなければ担えない役割を伺う。
- ② 他主体では制度的・実務的に代替できない具体的な事業を伺う。

(2) 浜田市社会福祉協議会の存在理由の更新について

- ① 浜田市社会福祉協議会の存在意義は、いつ・どのように見直されてきたのか、見直しているのか伺う。
- ② 定期的に「役割の再定義」や「不要事業の整理」を行う仕組みはあるのか伺う。

(3) 成果が出ていない事業への対応について

- ① 成果が乏しい、あるいは役割が薄れている事業は存在しないのか伺う。
- ② それらについて、廃止・縮小・民間移管を検討した実績はあるかについて伺う。

(4) 財源構造の実態について

- ① 浜田市社会福祉協議会の収入に占める、浜田市からの補助金・委託金の割合はどの程度か伺う。
- ② 自主財源比率の5年間の推移を伺う。
- ③ 市の支出がなければ、現在の運営は成立するのか伺う。

(5) 抜本の見直しの可能性について

- ① 人口減少・財政制約を前提に、10年後の浜田市社会福祉協議会像は描かれているか伺う。
- ② 統合、機能縮小、役割転換、解体的再編を選択肢としてどの程度検討したか伺う。